

2014年 春号

第85号

僧伽編集委員会

〒921-8031
金沢市野町2丁目32-4
徳法寺内
TEL (076) 241-5219
題字 本多 千翠

僧 伽

慈悲に聖道・浄土の
かわりめあり

『歎異抄』

『歎異抄』
親鸞聖人亡き後、
門弟が耳の底にのこ
る師の言葉を語録に
まとめた書



再生への願い

常徳寺 西山 彰

小さな船の上で呆然と立ち尽くす瘦せこけた漁夫。背景には、

生まれたばかりの赤ん坊と、それをあやす少女。赤ん坊に寄り添っているはずの母親の姿はない。

男は、何かを祈っているように見える。それは先立つた妻への祈りだろうか、それとも二人の子供たちの明るい未来を願う祈りだろうか。

無邪気な子供たちの姿が一筋の希望の光となつて、全体を覆う重苦しい絶望観から、画面を救っている。

十九世紀末、パリで活躍したフランスの国民的画家ピエール・ピュヴィ・ド・シャヴァンヌの「貧しき漁夫」である。彼は、絶望と

希望が交錯する瞬間を、何気ない日常から見事に切り取ったのだ。

彼の画業のほとんどは、普仏戦争で疲弊したパリ市民を勇気づけるための壁画の制作に費やされた。今もパリ市庁舎や、ソルボンヌ大学に彼の手になる壁画の大作が残されている。それらの壁画が、若き日のピカソを夢中にさせたことは有名である。彼は、「シャヴァンヌの絵には私の信じているものすべてがある。」と言っていたと伝えられる。

ここに紹介する「貧しき漁夫」という作品は、小品ではあるが、先述の壁画と共通したテーマで描かれている。ここには派手な神話的演出もなければ、歴史上の有名な人もいない。しかし困難に打ちひしがれながらも懸命に生きようとする人間の姿を、明快な主題で描いた名作であるといえるだろう。

私はこの絵に東日本大震災を重ねてしまうのだが、どうだろうか。

「御絵伝」でたどる 親鸞聖人のご生涯

(22) 最終回

第二十二回目は「本廟創立」です。

親鸞聖人が亡くなられて十年の後、それまでの墓を改めて廟堂が建てられます。それが今回の絵になります。「遺骨を掘渡して仏閣を立て影像（親鸞聖人の木像）を安す」とありますから、前回の「僧伽」に載せましたお墓に比べると随分と立派になっていきます。

場所は、親鸞聖人の末娘である覚信尼の二番目の夫である小野宮禪念の百四十坪余りの土地で、現在浄土宗本山の知恩院が建っている北隣になります（今は知恩院塔頭のひとつである崇泰院となっています）。絵を見ると、門をくぐった正面に遺骨と木像を安置した「仏閣」があり、その横に住

居らしきものが建てられているのが分かります。この絵伝にあるのは後世のもので、当初は影像の前に墓から持ってきた石塔が置かれていたようです（図一、善信聖人は親鸞聖人の別名です）。お骨はその石塔の下にあったのでしょうか。

墓を廟につくりかえた理由としては、関東の門弟たちが、前夫との子供二人と今夫との子供一人を抱えて困窮していた覚信尼を経済的に支えるためであったと

考えられています。この事は、親鸞聖人が自分が亡くなった後に、末娘の生活の面倒を見て欲しいと、関東の門弟にお願いしている手紙が残っていることから想像されます。廟所ができて三年後に夫である禪念が亡くなり、その二年後に覚信尼はこの廟所を関東の弟子たちに譲ります。その代わりに、自らは留守を預かる者として関東の門弟たちが生活費を保証し、この関係が子々孫々まで続くことを求めました。今でも本山が「本廟護持」を第一義に掲げているのはこのためです。

その後、南側にほぼ同じ面積の土地を買い足して三百坪弱の広さになりました。絵の右側の建物がその時建

てたものです。影像の前にも石塔ではなく机がおかれるようになります。

しかし、覚信尼が亡くなると、前夫の子覚恵と後夫の子唯善との間で留守職を巡る相続争いが起こります。覚信尼は覚恵を指名したのですが、土地の所有者であった後夫の子である唯善がこれを不服としたのです。絵で箒を持っているのは覚恵とされています。この争いに負けた唯善は、影像と遺骨を持って関東に行ってしまう。図二に影像が無いのはこの為であるといわれます。廟所と名乗れなくなつたために、この地を相続した覚恵の子である覚如は本願寺を名乗ることに

なります。親鸞聖人のお骨が京都に戻ってきたのは、この百五十年ほど後に蓮如が本願寺住職になってからであるといわれます。

(浄)



図一：津市専修寺所蔵
善信聖人親鸞伝絵（廟堂）



図二：西本願寺所蔵
善信聖人絵（廟堂）



映画の紹介

『君のためなら千回でも』

常德寺 西山 彰

一九七九年から十年間にわたる旧ソ連のアフガニスタン侵攻は、それに伴うモスクワ・オリンピックのボイコットとともに記憶に新しい。

ソビエト軍に対する抵抗運動は、イスラム教のもとに団結したタリバンなる無法者の集団を生む。やがてその無法者たちの刃はアメリカへと向けられ、同時多発テロを引き起こすこととなる。ソビエト軍に対する抵抗運動を陰で経済的に支援したのは、ほかならぬアメリカであるから、タリバンはとんでもない恩知らずの狂気の集団ということになる。

一九七九年から十年間、ブッシュ政権が行ったアフガニスタンへの報復も、イラク戦争も正当化されてしまうことになる。しかし、おそらく事態はこれほど単純ではない。アメリカはアフガニスタンを支援したというかもしれないが、ならばその後生まれたアメリカに対する激しい憎悪は、どう説明がつくのだろうか。ビン・ラーディンらに指導された反米イスラム原理主義を、単なる大国に対する嫉妬で片づけるといえるだろうか。これはどう考えても乱暴な議論だ。

この地にはもともと複雑な民族対立があり、どの民族の立場から見ても、よって、解釈は無数に存在する。真実はどこまでも闇の中だ。

実際この地で起こった不幸な出来事は、アメリカとソ連という二大大国の代理戦争であったことは否めない。

『君のためなら千回でも』は、アフガニスタン人カーレド・ホッセイニが書いた『カイト・ランナー』という原作を映画化したものである。この原作はアメリカでベストセラーになったが、ここではタリバンは極悪非道な暴力集団として描かれていて、それが事実なのか、都合よく切り取られた事実なのかは私には判断できない。ただそのような描写が大いにア

メリカ人を喜ばせたことは想像に難くない。

しかしそれらのことをすべて差し引いても、このアフガニスタンを舞台にした二人の少年の友情物語が、これほどまでに胸を打つのはなぜだろうか。それはハッサン少年の主人公に向けられた友情の純粹さゆえであろう。

この少年の無償の友情を前にした時、自国の利害

と迷惑を含んだ大国の善意の何と薄っぺらいことだろう。タリバンの愛国心の何と自分本位なことだろう。真の善意とは何か、またそれを実現することがいかに困難であるかというテーマが、このドラマを貫いている。まさに心洗われる映画である。



真宗人物伝

第三十四回

徳法寺 杉谷 浄

善性ぜんじやう

今回は親鸞聖人の弟子で、関東二十四輩の第九番である善性です。

善性には二つの伝承があります。一つは親鸞聖人が越後流罪を許された後、信州の善光寺に向かわれた時に逗留した、井上一族の井上太郎忠長が、親鸞聖人の教を受けて弟子入りして善性となったという説です。

親鸞聖人が、なぜ故郷の京都ではなく、地縁や血縁の無い関東に向かわれ、さらにそこで多くの門弟を得ることができたのかは、親鸞聖人自身が語っていないので、今でも定説がありません。妻子を伴っていた親鸞聖人が、善光寺聖ひかりになるために、信州に向かわれたという伝承は

古くからあります。善光寺

聖とは、善光寺から預かつ

たご本尊を各地で開帳し、講を組織して寄進を集める

というものです。信州の豪

族であった井上一族が、親

鸞聖人と善光寺の間を取り

持ったということも考えら

れます。もしこれが事実で

あれば、親鸞聖人が関東で

どのように生計を立ててい

たのが伺われます。

もう一つは、善性が後鳥

羽上皇の第三王子である正

懐親王であったという説で

す。親王は比叡山で出家し

て周観となります。しかし、

出世争いに明け暮れる比叡

山での生活を嫌って、諸国

行脚の旅に出ます。そこで

親鸞聖人と出会い弟子と

なったというものです。後

鳥羽上皇といえは、壇ノ浦

で平家と共に海に沈んだ安

徳天皇と同時期に天皇の位についていたことや、法然上人や親鸞聖人を流罪にしたことで知られています。

その息子が親鸞聖人の弟子

となったというのが事実で

あったとしたならば、不思議なご縁であるといえます。

しかし残念ながら、後鳥羽

上皇が十人以上の女性との

間にもうけた二十人余りの

子供たちの中に、正懐親王

という名前はありませぬ。

天皇の実子が諸国を行脚す

るといのは、当時としては

考えにくいことではあり

ます。

善性は親鸞聖人のお手紙

を集めた『親鸞聖人御消息

集』を編纂したことも知

られていますし、親鸞聖人

が京都に帰られた後、関東

教化の中心地であった稲田

の草庵を任されたともいわ

れています。晩年は信濃で

布教に励み、江戸初期には

善性と縁のある寺が二百数

十ヶ寺もあったといわれま

す。現在も各地に善正開基

の寺があることから、親

鸞聖人が京都に行かれた後に、東国での布教に大きく貢献したことが伺われます。親王説は、このように善性が大きな影響力を後世に残したことから生まれたのかもしれません。



徳法寺の

ホームページが
できました

今更ながら、ホーム

ページを作りました。

「僧伽」のバックナンバー

や報恩講、春秋彼岸の

案内、お講の案内、学習

会のレジュメ、交流広場

などを載せています。ア

ドレスは

<http://kokuhou-ji.com/>

です。是非覗いてみて

ください。

杉谷浄の

ラジオ案内

四月一日(火)

五月六日(火)

六月三日(火)

七月一日(火)

F・M・N・I(七十六・

三MHz)で午後一時半

から一時間放送します。

番組名は「生活一番シャ

トル便 住職のよもや

ま話」です。再放送は放

送日の週の土曜朝六時

からです。インターネッ

トでも聞けます。

本の紹介

『色彩を持たない
多崎つくると、
彼の巡礼の年』

村上春樹 著

文芸春秋

『ル・マル・デュ・ペイ』は、リストの『巡礼の年』という曲集の中に収められている美しいピアノ曲である。一般的にはホームシックとかメランコリーといった意味で用いられるが、詳しくは「田園風景が人の呼び起こす、理由のない

悲しみ」を意味している。かつて村上春樹を有名にした『ノルウェーの森』がそうであったように、この作品においても、音楽の果たす役割は大きいように思われる。

主人公多崎つくるとして、『ル・マル・デュ・ペイ』は、美少女シロが好んでピアノで奏でていた思い出の曲であり、思春期の淡い恋心を蘇らせる装置であった。そして何よりもこのピアノ曲によって、彼は過去の辛い出来事とつながれていたのである。多崎つくるとは、高校時代、男二人、女二人の四人の親

友がいた。赤松慶、青海悦夫、白根柚木、黒埜恵理。偶然にも彼らは名前に色を含んでいた。アカ、アオ、シロ、クロとあだ名で呼びあう中、彼ひとり色彩を持たない「つくる」だった。

彼ら五人は、単なる仲良しグループを超え「乱れなく調和する共同体」だった。その共同体の中で、つくるは、強烈な個性こそなかったが、クールでマイペース、何よりも周りに安心感を与える存在だった。彼は愛され、尊敬されていた。

誰かが決めたわけでもないが、グループ内では恋愛はご法度だった。それが共同体の調和を乱し、絶妙な人間関係を崩すことになることを、彼らは本能的に知っていたからだ。

やがてつくるは、幼いころからの夢だった駅の設計者を目指して、東京の大学の工学部に進学する。一方ほかの四人は、地元名古屋の大学に進学した。

ところがしばらくして信

じられないことが起きた。久しぶりに名古屋に里帰りをしたつくるが、四人と連絡を取ろうとしても誰一人それに応じてくれないのだ。つまり彼は共同体から理由も告げられずにある日突然追放されたのだ。

いきなり一人暗い海に放り出されたような思いを抱えて、彼は途方に暮れた。自分が信じられなくなり、やせ細り、自殺することばかりを考えながら日々を過ごした。そしてそのような危うい時期を乗り越えた後も、辛い思い出は、『ル・マル・デュ・ペイ』の曲とともに、彼の中で深い傷となつてうずき続けることとなる。

それから十六年の歳月が流れた。彼は人と深くかわることに自信を持っていない。まま年齢を重ね、三十六歳になつていた。彼の内面に気が付いた聡明な恋人木元沙羅は、つくるに勇気を出してもう一度四人に会ってみることを勧める。

そこから、かつての友人を

尋ね歩く彼の巡礼の年が始まるのだが、次第に思わぬ事実が明らかになっていく……。つくるが巡礼の年の最後にたどりついたのは、フィンランドの保養地であった。クロがフィンランド人と結婚し、この地で家庭を設けていたからだ。そこで彼女の口から十六年前の真実が語られるのだが、この時も部屋に『ル・マル・デュ・ペイ』が流れている。クロは最後につくるに言う。君は色彩を欠いてなんかない。そんなのはただの名前にすぎないんだよ。そして、怯えやつまらないプライドのために大事な人を失つてはいけなさと。この言葉とともに、つくるの心は十六年間の呪縛から解放される。そしてそのとき彼の巡礼の年は終わりを告げたのだ。

『ル・マル・デュ・ペイ』の調べと同様に、心地よい余韻を残す小説だった。

(彰)



村上春樹

真宗豆知識

寺

寺院や仏閣とも言いいますが、一般には仏教の僧侶が住まいして宗教行事を行う建物を指します。神道では神社、道教では道観、イスラム教やユダヤ教では神殿と言います。キリスト教では教会と言いますが、サン・ピエトロ寺院というように、修道院では寺院が使われることもあります。修行する場所という意味でしょうか。

礼拝の対象を安置した本堂(堂塔)と、僧侶の居住する庫裏(僧坊)とがあります。お釈迦様の時代には、出家者が宿泊する場所をヴィハーラ(精舎)と呼びました。有名な祇園精舎は、ジェタヴァナ・ヴィハーラです。出家者の集まりである僧伽に寄進された土地を意味する、サンガランマ(僧伽藍摩)を略して伽藍とも呼びます。当時は建物を用いず、野宿

が基本でしたが、次第に建物に住むようになりました。「寺」は、元々「もつ」という意味でしたが、後には政府が所有している建物を指すようになり、更には役所そのものを意味するようになります。今でいえば「省」や「庁」になります。

それが、後漢の明帝が西域にあつた大月氏から仏教僧を招聘して中国に迎えた時に、鴻臚寺を宿舎として建て住ませたことから、僧侶の住むところを「寺」と呼ぶようになりました。

この後、最初の仏教寺院として白馬寺が建てられます。この時、僧侶と共に『四十二章経』と釈迦立像が白馬に背負われて運ばれて来たために、白馬寺と名づけられたとも言われています。『四十二章経』は仏教最初の漢訳経典とされる経典です。ただし、現在読まれているような経典とは異なり、印度や西域の僧侶によって説かれた内容を簡条書きで記録したもののように、一貫した

内容になつていません。白馬寺は明の時代に拡充され、現在も「中国第一古刹」として洛陽市の東郊にあります。



「寺」が「もつ」という意味を失つたために、代わりに「持」や「侍」の字が作られます。ですから、漢代以前の漢文に「寺人」とあるのは僧侶ではなく君主の横に侍っている側役人のことです。当時、側役人の多くは宦官でしたから「寺人」も宦官と同じ意味として使われています。「寺」が今のような意味で広く使われるのは四世紀の東晋のころからです。また「てら」という読み方

は、朝鮮語のチヨル(礼拝)またはチャル(刹)からきたとも、古代インド語であるパーリ語のセラ(長老)からきたともいわれますが、定説はありません。(浄)

各寺のご案内

◆常徳寺

金沢市寺町
五丁目一番二九号
〒二四一―二六四九

正信偈のお勤め
午前十時半
法話 南砺市大福寺
住職 太田浩史
正午
御齋 手打ちそば
更科藤井
午後一時
ジャズ・ライブ
森内清敬(ダルブカ)
荻野やすよし(ギター)
上野賢治(フルート)
午後二時
朗読劇 相馬移民奇譚
アフタートーク
午後三時半
太田浩史&
原力男(朗読劇脚本)

◆徳法寺

金沢市野町
二丁目三二―四
〒二四一―五二一九

◎お講(石坂同信会主催)

毎月二十一日
午後七時半より

講師 四月 佐藤 哲
五月 杉谷 浄
六月 松林 忠雄
七月 杉谷 浄

◎報恩講

五月十一日(日)
午前九時半より



編集委員

西山 彰(常徳寺)
杉谷 浄(徳法寺)